

第5章 著者体験談

1 アメフトと司法試験（西口体験談）

2 透析と勉強の両立（近江体験談）

この章では、西口・近江のそれぞれの体験談をインタビュー形式で紹介します。

エリートタイプではなかった二人が、司法試験の講師になったり、資格取得の達人となった過程を読むことで、誰しものがやればできるということを理解していただければと思います。

1 アメフトと司法試験

① 小学生時代からスポーツ三昧でした

—— 西口先生は、小さいころから勉強が好きだったんですか？

西口 勉強は大嫌いです。今も好きではありません。子供のころから、野球、サッカーといったスポーツばかりしていました。学校の成績も試験勉強なんかしないので、後ろから数えた方が早かったと思います。

—— それじゃ、僕とかかわらないですね。笑。西口さんは、同志社大学法学部法律学科に入学されていますね。法曹を目指して入学されたんですか？

西口 いいえ。友人が法学部に行くということで、ただ何となく法学部に進学しました。入学当初は、司法試験の勉強なんて100%想定しておりませんでした。

—— 大学に入ってアメフトを始めたのですか？

西口 はい。高校2年生のときに甲子園ボウルを見て、関西学院大学98番の

中筋選手に感動して始めました。いや、これは建前かもしれません（笑）。
本当は、女性にもてるからと始めましたね。動機が不純です（反省）。ところが、残念ながら全くもてませんでした。それよりかえって怖がられましたよ（汗）。

—— ところで、初めてのアメフトの練習は大変でしたか？

西口 もちろん、体中を鍛えないと怪我をするので筋トレが大変でしたね。御蔭様と言っていいのかわかりませんが、1年間で体重が15キロ増加しました。週3回は筋トレしていましたね。しかも、フリーウエイトでやっていたため、胸筋がどんどんつきました。張りぼての筋肉で全く使いものになりませんが。ちなみに、フリーウエイトとは、ジムに置いてあるマシンを使わず、バーベルやダンベルなど器具をウエイトとして使ったトレーニング法です。

—— アメフトってハードなスポーツですよ？怪我等しませんでしたか？

西口 もちろん、学生時代2回救急車で運ばれました。1回目は肩の脱臼で大了ことありませんでしたが、2回目は右膝の半月板損傷で全治6カ月の怪我を負いました。

—— 大変ですね。ところで、西口さんは大学卒業後もアメフトをされていたんですよね。受験生を続けながらですか？

西口 そうですね。卒業後、同志社大学の大学院に進学したんですが、アメフトのことを忘れることができず、Xリーグのチームに入団しました。それ以降、10年くらいアメフトをしてきました？

—— 司法試験の受験生がアメフトをするのは、きつい上に危険では？

西口 はい。やってしまいました。法科大学院の2年生の9月に試合で右手の指3本を骨折してしまいました。そのため、法科大学院の授業を受けるのも大変な状況でした。その時のノートはひどいものです。周囲の友達にも馬鹿にされましたね。

—— 司法試験合格後もアメフトをされていたんですね。

西口 はい。アメフトをしていました。最終の登録は平成24年までです。ほ

んと下手の横好きなんです。

② 司法試験を始めるに至った動機

—— 話は戻りますが、司法試験を受験することになったきっかけは？

西口 大学3年生の6月に右膝の怪我のため、病院に長期入院しました。その際、暇で暇で仕方なかったのも、法律の本を読み始めました。それまではほとんど法律書を読んだことがなかったのですが、意外に面白くて、がんがん読んでしまいました。それで、まわりが就活を始める時期になって、これからどうしようかと悩みました。先輩に聞いてみると、「一流企業には入れるかもしれないけど、一生兵隊どまりで出世はできないよ」と言われたんです。それだったら、一発逆転のTD（タッチダウン）を狙うという気持ちで司法試験の勉強をしようと決意をしたわけなんですね。もちろん、女性にもてるかもという淡い期待も抱いておりましたけど（笑）。

—— 司法試験の勉強のスタートは？

西口 大手予備校の入門講座を受講しました。しかしながら、モチベーションが足りなかったのか、分からないことだらけになり、さぼりがちになりました。また、アメフトの勉強もあったので、なかなか本腰を入れることができませんでしたね。

—— アメフトをやりつつ司法試験の受験生だったわけですね。

西口 何度も受験しました。初めて司法試験を受験したときは、択一で11点しか取れませんでした。当時は5択で60問なんでアテズッポでマークしても12点取れるはずなんです。そのときは悲しかったですね。完璧に司法試験を舐めていました。それで本気で勉強しないといけないと決意をしたわけです。

—— 本気で勉強すると決意をして、何かされましたか？

西口 いったんアメフトを引退しました。それで死にもの狂いで択一の問題を解き続けました。

—— どれくらいの問題を解かれたのですか？

西口 先輩が世の中に存在する問題を全部解けと言われたんです、とにかく全問題を解きました。1年間で3万問は解きました。吐きそうでしたけど。

きつい練習やきついトレーニングをしてきたことと択一の問題を解き続けるのは似ていました。特にキッカーの練習と重複するものがありましたね。キッカーの練習はひたすらあの楕円のボールをけり続けます。何度も何度も蹴り続けます。択一の問題演習もそっくりでしたね。すぐには成果が出ないけど、徐々に効果が上がるんですね。

—— アメフトのトレーニングが生きてきたんですね。やっぱり地道な努力は大切だということですね。

西口 その通りだと思います。

③ アメフトが教えてくれたもの

—— ところで、今回のテーマにもなっていますが、アメフトをやっていて良かったと思うことはありますか？

西口 司法試験は、闇雲に勉強するのではなく、戦略が大切なアメフトと似ているところがあるのです。アメフトでは、試合前は相手チームを徹底的に研究するんですね。この発想は司法試験に通じるんじゃないでしょうか。敵とは司法試験で言えば、本試験の問題ですね。本試験の問題を分析することにより、相手方の出方が分かってきます。すると、合理的な練習・勉強をすることができるようになるのです。

—— そういえば、京大は大学アメフトの強豪ですね。他にも何かありますか？

西口 やはりここ一番の馬力でしょうか。一つのことをやり遂げる力をアメフトは教えてくれたと思います。小さいことの積み重ねが成功を生むとでもいうことでしょうか。

—— それでは、最後に読者に方にメッセージをお願いします。

西口 読者の皆さん、法律の勉強が楽しくなったら、司法試験の世界に来てください。辰巳法律研究所でお待ちしています！

2 透析と勉強の両立

① 高校時代から透析、大学受験は全滅

—— 近江さんは、小さいころから試験に強かったんですか？

近江 まったく、そんなことはありません。小学校などのお受験も中学受験もしていません。高校までずっと公立、高校3年生の時には英語の単位を落としました。

—— 小さいころからエリートだったのではないんですね。大学受験はどうされたんですか？

近江 それが高校3年の夏から人工透析を受けることになってしまったんですよ。

—— 大学受験まで半年もない時期ですね。

近江 そうです。当時、受験して地方の国立大学の工学部に進学予定だったんです。でも、透析をしながら地方で一人暮らしをするのは無理と判断して法学部に切り替えたんですが、結局、3浪しても、どこも受からず全滅です。

—— 今の近江さんからは、考えられないですね。

近江 そのころは、受験勉強がきついというより、精神的に病んでいましたね。当時は、透析になってしまったら、長くは生きられない。5年前に透析していた人は、半分は亡くなっていたという時代でした。僕も「余命5年か」と思いました。もっとも、5年前に透析していた人は、5年前から透析を始めたんじゃないくて、もっと前から透析していたのですが、当時は、そこまで気付かなかったんです。それで、「余命5年」かと。

—— とてもつらいお思いをされていたんですね。

近江 そうですね。今思うと、透析に入っところが人生のどん底でしたね。

—— そこから、どうやって立ち直ったんですか？

近江 高校時代の友人の励ましが大きかったですね。そして、気持ちを切り替えたんです。

—— どのように切り替えたんですか？

近江 「僕は、他の透析患者さんより若くて体力があるから、10年くらいは生きられるだろう。残された時間は10年だと思って思い切り人生を生き抜こう」と思ったんです。

—— そんな若い時期に、死を意識していたんですね。

近江 う〜ん。そんなかつこいいもんじゃありませんよ。死を意識したくないから、そこから逃げるために生^{せい}を意識するようにしていたんだと思います。

② 資格試験に目覚める

—— それにしても、大学受験の失敗から、どうして資格の達人になったんですか？

近江 実は、2浪してもダメだったときに、中央大学の法学部の通信教育課程の入学手続きをしていたんです。3浪のときは、いわゆる仮面浪人だったんです。通信教育課程の方の勉強は、まったくやらなかったんですが。

なにもやらないうちに2年生になっていて、これはまずいと思って、通信教育課程の学生が集まる勉強会に顔を出すようになりました。そこで、すごく刺激を受けました。

—— どのような刺激を受けたんですか？

近江 当時、法学部の通信教育課程は、慶応や法政や日大などもやっていたんです。その中で、一番偏差値が高かった慶応は昼間部への編入試験の制度がなくて、昼間部への編入試験を受けられる法学部の通信課程の中で一番偏差値が高かったのが中央だったんですね。また、法科の中央ということで、司法試験や資格試験を目指す方が多かったんです。日大や法政はスクーリングも多くて、卒業しやすかったんですが、そんな中、八王子の山の中の中央大学を選ぶ人は、前向きで意識が高い方が多かったんですね。

—— 同じ法学部の通信課程でも、大学によってカラーがあるんですね。

近江 そうなんです。少なくとも当時は。今はWEB授業の導入など通信教育課程も進化しているようです。そして、1年生でなにもやらないまま2年生

になり、編入試験を受ける単位を揃えるのは厳しかったので、資格試験の受験を目指すようになりました。司法試験はちょっと勉強してみたんですが、これはむずかしいって思って断念、2年生で行政書士試験を試し受験して、3年生で受かりました。

—— 透析しながら、3年生、実質2年生での行政書士試験合格は立派ですね。

近江 今より、ずっ〜と簡単だったんです（小声）。でも大学受験で失った自信を、だいぶ取り戻すことができました。

—— 行政書士試験が、資格試験のスタートだったんですね。

近江 そうです。当時の行政書士試験は、一般常識20問と専門科目30問で50問、それに論文試験でした。今と同じ6割が合格ラインでしたが、一般教育科目と専門科目、それぞれにいわゆる足きりはなかったみたいです。僕は、一般常識で点数を稼ぎました。いまの一般常識と違って、算数国語理科社会の出題だったんです。何度もセンター試験を受けた大学入試の勉強も無駄ではなかったんだなあって思いました。そして4年生の時、当時、行政書士試験と科目がかぶっていた公務員試験を受けて公務員になりました。

—— それまでやっていた勉強が、他の試験で役に立ったんですね。

近江 そうなんです。それに気がついて、資格試験をたくさんうけるようになったんです。

③ 仕事と勉強の両立

—— 透析をしながらの勉強は大変だったんじゃないですか？

近江 行政書士試験のころは、まだ公務員になってなかったんで、わりと時間はありました。大学は8年間かかってやっと卒業したんですが、働きながらのんびりとやって卒業したって感じですね。

宅建や社労士を受けていた時は、仕事と透析と試験勉強を同時にこなしていたので、大変でしたね。しかも、そのころはテニスサークルの会長もやっていたんです。

—— 透析しながらテニスもですか？

近江 はい、公務員になってから始めて10年位はやっていましたね。草大会まで出場していました。もっとも、当時は、通っていた透析病院のなかでも、元気な方から五本の指に入るくらい元気でした。慢性病は個人差が大きいんです。今は、足腰を痛めて、走ることすら厳しいですが。

試験には、コツがあるんです。要領よく勉強するコツが。科目が重なる試験を受けるというのもある意味コツに入るのかな。

—— それにしても、同時にいろんなことをこなすのはすごいですね。

近江 僕は、別にスーパーマンとかではないんです。好きなことだからできたということが大きいんですね。資格試験の勉強も結果ができれば楽しくなるしテニスも大好きでした。分刻みにスケジュールが詰まっているはずのアイドルが恋愛してデートしてたりするのと似ているのかもしれないね。

—— それにしてもすごいですね。

近江 社労士や宅建を受けるころには、資格試験の合格のための突破法が身につけていましたから、他の受験生の半分の時間で合格することができたんだと思います。そして、メンタルの変化も大きかったですね。

—— メンタルの変化ですか？

近江 はい。僕は、体が悪かったけど、「誰しも、体のことでも他のことでも、いろいろなものを背負いながら生きているのだから、くよくよしたってしょうがない」と思えるようになっていました。そして、こんな体だと、暇になって時間があるとネガティブになりやすいんですね。将来不安ですし。心の芯のところはまだまだ弱いんだと思います。だから、わざと忙しくしてまぎらわせてしまう癖があるんです。

—— お話を聞く限りでは、十分、メンタルが強いように思います。

近江 ありがとうございます。でも、些細なことで落ち込んだり、自分ではメンタルが強いのか弱いのかわかりません。ただ、忙しいことは充実していることだと感じる性格になっていることは確かですね。

④ 近江流試験突破法

—— 近江先生の資格試験突破法とは、どのようなものですか？

近江 法律の資格は、比較的、古くからある国家試験が多くて、教材にしても予備校や講師にしても、良いものや良い予備校や講師はたくさんいます。だから、一通り勉強した人であれば、あまり差がつかないはずなのに、合格者と不合格者に分かれる。それには、3つの理由があります。

—— 3つの理由とはなんですか？

近江 スケジューリング、テクニック、メンタルタフネスですね。

—— それぞれ、くわしく説明してください。

近江 スケジュールは、日程的な面と勉強の順番ですね。日程的には、試験日から逆算して予定を立てて、調整を繰り返しながら勉強します。勉強の順番については、僕は、講義やテキストの学習が一通り終わって過去問題集をやるのではなく、講義やテキストと同時並行で過去問題集を学習するのが特徴です。難易度がさほど高くない試験の場合は、勉強の開始時に、1年分の本試験問題を読んで、試験の範囲とレベルを掴むといったことをする場合もあります。

—— そういう過去問の使い方もあるのですね。2つ目のテクニックは？

近江 学習の仕方のテクニックと問題の解き方のテクニックがあります。例えば、7, 8年前に、「ドラゴン桜」というマンガが流行りましたが、あのマンガに書かれているようなテクニックをたくさん持って実践できていると、やっぱり試験には強いですね。

—— 3つ目のメンタルタフネスは？

近江 メンタルというと、昔は、「根性論」とか「ハングリー精神」ばかりが強調されていましたが、その二つもメンタルを語る上で重要な要素の二つですが他にも、大事な要素はたくさんあります。キーワードをあげれば、「モチベーション（やる気）」「ポジティブシンキング」「イメージトレーニング」「不安への対処」「集中力」「リラックス」「ネバーギブアップ」・・・などですね。

これらのキーワードはそれぞれ独立しているのではなく相互に影響し合っているのです。

—— それぞれが、独立しているわけではないんですね。

近江 そうなんです。スポーツのメンタルタフネスとよく似ているんです。

—— そういわれてみれば、そうですね。

近江 試験日からの逆算も、仕事でイベントなどの企画をすればイベントの日から逆算して計画を立てますし、何事もテクニックがある人の方が有利ですし、試験だから勉強だからと難しく考える必要はないんです。当たり前のことを当たり前に行えばいいんです。

読者の方もぜひ、資格試験に挑戦していただきたいですね